



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。

☒ **ハンガー・ゼロ
チャリティーコンサート**
アフリカと東日本の人々のために応援をお願いします
全コンサートに、奇跡の 4 本指のピアノリストのイ・ヒアさんが出演します。また、東日本大震災救援活動やアフリカの飢餓について報告をいたします。
【大阪】5 月 20 日 (金) 18:30 ~ 大阪女学院ホールチャペル (1,100 席)
【愛知】5 月 21 日 (土) 15:30 ~ 金城学院大学ランドルフ講堂 (1,700 席)
【広島】5 月 22 日 (日) 16:00 ~ 広島市南区民文化センター (554 席)
【沖縄】5 月 26 日 (木) 19:30 ~ うるま市民芸術劇場 (821 席)
【東京】5 月 27 日 (金) 18:30 ~ 練馬文化センター 小ホール (600 席)
※お問い合わせは、各事務所まで。会場へのお問い合わせはご遠慮下さい。



※全席自由。
チケットは、チケットぴあ (Pコード: 134-376) 全国のサークル K・サンクス、セブンイレブンで。沖縄のみローソンチケットで取り扱い。

ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中!

**今すぐ▶▶▶
各種支援の
お申し込み
ができます!!**

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
**お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。**

- ☐ ハンガー・ゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口、協力します。(1 口 1,000 円)
- ☐ JIFH 会員になり毎月定期的に財的協力をします。
毎月 () 口、協力します。(1 口 500 円)
- ☐ 「世界里親会」に協力します。
説明書、里親会入会申込書を送ってください。
- ☐ 海外派遣スタッフを支援します。
毎月 () 円 () スタッフ指定
- ☐ 海外派遣スタッフを支える会の会員になり、
協力します。毎月 () 口 (1 口 1,000 円)
- ☐ 郵便自動引落の申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: _____ 男・女
〒 _____
フリガナ
住所: _____

(電話) _____
▼申込日: _____ 年 月 日▼

FAX・072-920-2155

韓国で愛されている混声 5 人グループ、ヘオルンヌリが、昨年のハイチ支援コンサートに続いて今年も 4 月 1 日から 17 日まで、関東の 12 会場で 15 回の東日本大震災支援チャリティーコンサートを行いました。ヘオルンヌリは今年もすべて日本語で歌ってたくさんの皆さんに感動を与えました。

今まで支援の気持ちはありなが

ら機会がなかったという方々をはじめ、多くの皆さんからご協力と支援金をいただきました。



来年 3 月には仙台での「励ましコンサート」をする予定です。今回寄せられた募金は、1,052,795 円。

この募金は、東日本大震災で苦しんでおられる人々のために用いさせていただきます。ご協力感謝いたします。

ハンガーゼロ・サポーターのお申し込み拡大中です。運動への参加を感謝いたします。



日本国際飢餓対策機構

2011 No.250

5

飢餓対策 News



津波で壊れた軽トラックの荷台で、当機構の緊急支援に参加した英国人ボランティアとふれ合う子どもたち (石巻市牡鹿半島折浜にて)

彼らの顎からくつこを取り去り、身をかがめて食べさせた。(旧約聖書: ホセア書 11 章 4 節)

故ダイアナ妃が身をかがめてハンセン病患者さんと話をしている写真を、ネパールの村の病院で見たことがありました。「レプロシーミッションの総裁だった彼女は患者の傍に座り、お話を聞くのが常でした」と、ハンセン病院の院長が話してくれました。

太鼓腹では身をかがめて食べさせる事は出来ません。メタボを解消して身をかがめる事ができるように今から準備をしましょう。時々にはランチの断食はいかがでしょうか? 断食した分は身をかがめて飢えている子のために。インド、ネパールは一日二食で、アフリカの子どもたちの多くは一日一食です。

ネパールの病院でお腹の膨れた赤ちゃんが腸閉塞の診断で手術になりました。手術中の迅速診断で腹膜に大量の結核菌が見つかり、粟粒結核と診断しました。抗結核薬 4 剤での治療も空しく、1 週間後に召されました。お母さんも肺結核でした。男性中心の食事、嫁と乳飲み児が食べられるのは最後、食卓を囲む習慣のなかったネパールで赤ちゃんは 6 ヶ月の命でし

た。結核のみならずカラアザールやピッグベル、栄養失調でもお腹は大きくなります。

いま世界は、穀物、トウモロコシ、石油製品、軒並み値上げで、日本に住む私たちの家計も 20% 余計な経費がかかりそうな中、先ずは体の脂肪組織を 20% カットしませんか、姉妹兄弟のみなさん!

参考にエホデの剣が太鼓腹に食い込み抜けなくなった旧約聖書の怖いお話をお読みください。「イスラエルの人々に主はひとりの救助者、ベニヤミン人左ききのエホデを送った。彼はもろ刃の剣を衣の下、右のものの上に帯びて、モアブの王エグロンに面会した。エグロンは非常に肥えた人だった。エホデは左の手を伸ばし、右のももから剣をとって王の腹を刺した。剣の柄も刃と共に入ったが、剣を腹から抜き出さなかったのが、脂肪が刃をふさいだ。(士師記 3 章)」

太鼓腹は危険がいっぱいです。おなかを引っ込めて、飢えた子どもたちに身をかがめて食べてもらおうではありませんか。

日本国際飢餓対策機構 理事 木村雄二 (医師)

太鼓腹

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。ありがとうございます!

■発行者	岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
Web サイトアドレス	http://www.jifh.org/	愛知	〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
e メールアドレス	general@jifh.org	広島	〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号 TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
■郵便振替	00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構	沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
※支援金は随時受け付けております。			

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

失われない希望が満ち溢れる社会づくりを

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構 理事長 岩橋竜介

去る3月11日に発生した大地震と津波、またその後の余震で、さらに福島原発放射能漏れ事故で、被災されたり避難を余儀なくされた皆様に心からお見舞い申し上げます。それと共に、このような困難な中にも共に歩んで下さり支えて下さる神様の助けが、被災された方々、諸教会の皆さまや共に喜び共に泣いて下さるお一人おひとりの上に豊かにありますように、心からお祈り申し上げます。

3月13日から、JIFHは東北の被災地において様々な団体や教会、自治体の方々と協力しながら、被災された皆様のサポートをさせていただいてきました。失われたものや、痛んだ心の傷を考えます時に、その大きさに圧倒されますが、それでも誰かが何かを少しずつでもしなければ何も起こらないという思いから、当機構も微力ながら働いてまいりました。「私から始める。世界が変わる」これが、JIFH、特に「ハンガーゼロ」のスローガンとなっていました。海外での飢餓撲滅の働きだけではなく、今回の大震災と津波の被害からの復興に対してもまた「私から始める。世界が変わる」のだと信じて、私どもも精いっぱい

活動が続けています。

JIFHだけでこのような被災地の支援ができるわけではありません。私どもを信じて下さり、用いて下さる日本の諸教会、団体、自治体、また個人の皆さま、海外におられる日本を愛して下さる方々の犠牲的なご支援によって活動が続けてくることができました。その尊い献げもの、物資の提供、献身的なご奉仕に心から感謝いたします。これらの愛の行動を通して、困難の中に「善い隣り人となって、共に生きる」ことのすばらしさを神様は示して下さいました。

善い隣り人となって

被災地の必要はまだまだ膨大です。目に見える必要もあれば、目には見えない心のケアも必要です。何よりもこの望みえない時にこそ、希望が必要です。私どもは確信しています。様々なものは時代によって変化し移り変わっていきますが、今までもそしてこれからも変わらないイエス・キリストの愛こそが、決して失われることのない希望であることを。

今回の被災地支援で避難所や地域を回ったり、特に地域の教会を

通して支援の手を差し伸べる中で、「ああ、あそこに教会があったよかった」と近所の方々が語って下さっています。諸教会が手を取り合って協力して、物心両面の必要に応えています。「キリストさん、ありがとう」と町の方が、言って下さいました。今、教会と地域のリーダーやそこにいる方々が結びあわせられ、その地域が震災前よりももっと素晴らしい場所に変わっていていることを確信します。新しい建物や街が再建されるだけではない、決して失われない希望が満ち溢れ、愛によって互いに結びあわされるコミュニティを生み出すことを私たちJIFHも目指していきたくと願っています。そのためにJIFHはこれからも被災地で活動し続けて行きます。善い隣り人となって、共に生きて行きます。しかし、私たちだけで出来るものではありません。皆さまのさらなるお祈りと、ご支援を何卒よろしくお願いいたします。

「喜ぶ者とともに喜び、
泣く者とともに泣きなさい」



宮城県気仙沼市長磯森
気仙沼第一聖書バプテスト教会
(流失した教会堂に再び十字架)

Republic of the Philippines

サンアンドレスの人々

フィリピン駐在スタッフ 酒井慶子

ご主人のディノ・パンテさんはサンアンドレス出身、奥さんのミラさんは結婚してこの村に来ました。1993年、サンアンドレスは大洪水に見舞われ、多くの村人が田んぼや家を失い、パンテ夫妻の家も流されてしまいました。ミラさんは子どもを背中に背負ってヘリコプターで救助されました。洪水後、村の半数の人が農業をあきらめて村を離れましたがパンテ夫妻は村に残りました。今でも収穫前は現金が手元にない日が続き、お米を親戚に借りに行くこともしばしばですが、ミラさんはこの村が好き、と話します。

約3年前私が初めてサンアンドレスの村に入った時から、英語を話せるミラさんはなにかと私を助けてくれました。川にいっしょに洗濯に行ったり、私ひとりで村に泊まる時は、彼女の家に泊めてもらいました。

少数民族マンヤンの識字教室の教師のトレーニングの時、ミラさんはご主人についてきて後ろの方に座っていたエレナさんに気づき、声をかけて字を教え始めました。エレナさんは28歳で生まれて始めて「tasa」(カップ)、という文字を読み、ミラさんは自分のことのように大喜びでした。

ご主人のディノさんは村の村会議員。誠実で優しい人です。昨

年、村で私たちのラップトップが2台盗まれ、スタッフも私も言葉もなくじっと座り込んでいた時、夜になってトントンとノックの音が聞こえました。おそろおそろ扉を開けるとご夫妻が立っておられました。私たちを心配して事務所

—第2回—

パンテ夫妻



を訪ねてくださったのです。

お二人の顔を見たとき、ほっとしたのか、涙が流れ出ました。

いいリーダーになりたい…

いつも冗談をいってみんなの心をほぐしてくれる、明るくて心暖かいミラさんは、この3年間ボランティアとして私たちと一緒にコ



●酒井慶子●

2008年4月、夫の酒井保とともに持続可能なコミュニティ開発に取り組むためフィリピン・ミンドロ島に赴任。スタッフトレーニング、少数民族の識字教室などに関わる。

ミュニティ開発に取り組み、活動を通して様々な経験をして、今、コミュニティの婦人のリーダーとして活躍し始めました。

先日、彼女から「リーダーとしての自分をどのように評価すればいいの」というメールを受け取りました。「どうして」と聞くと「いいリーダーになりたい。家族のためにそしてコミュニティのために」という返事が返って来ました。3年間一緒に開発に取り組んで来たことで彼女の心が変わられてきたことがとても嬉しいです。

※ ※ ※ ※

2009年の10月にフィリピンはオンドイ、ペベンと続けて台風の被害にあい、海外からもたくさんの支援が届きました。日本の地震のニュースを聞いて、支援してもらうばかりではなく自分たちにも何かできないかとフィリピンでも募金活動が始まっています。

東日本大震災 緊急支援活動

こころとからだの飢餓対策で被災者を支えます

2011年3月11日、この日は日本人のだれもが忘れることのできない日となりました。東日本を襲ったトリプルの苦しみ、大地震、大津波、原発事故。それによって多くの命が奪われていきました。特に津波の被害はかつて経験したことのないほどの大災害を引き起こしました。目の前でわが子が流されていく、家ごと車ごと家族が波にさらわれていった、病院患者をベッドごと持っていかれたなどの話をうかがうたびに言葉を失ってしまいます。地震発生から1ヶ月が経過しても、その爪痕は各地に深く、大きく残っています。

となった仙台YWCAの協力が何よりの支えとなりました。そして、TCI（東京基督教学園）KGK（キリスト者学生会）、本郷台キリスト教会、国分寺バプテスト教会、日本同盟基督教団、東海福音フェローシップ、ブラジル人グループ・アボヨ、日本福音自由教会協議会、名古屋高校、セシール、ロングライフホールディングス、多くの個人ボランティアが次々に被災地に入ってくださっています。地元のキリスト教会の支援組織「東北ヘルプ」が生みだ

つけてくださっているのです。定期的にパンの缶詰を届けてくださるパン・アキモト、宮崎の新燃岳で被害を受けた農家から新鮮な野菜と肉を届けてくださっている宮崎被災者支援協働センターの皆さん、これは市の活動と考えて協力してくださる八尾市長はじめ市民の皆さんとグレース宣教会、医療器具を取りそろえてくださったアガパーククリニック、歌声で心のケアをしてくださっている森祐理さん、水や食料、新品衣料を大量に送ってきてくれたJIFHのパート

誰かのために役に立ちたい 日本や世界の仲間から応援の輪が広がる JIFH東日本大震災緊急支援リーダー 清家弘久

この危機的な状況の中で、日本国際飢餓対策機構の震災救援活動開始以来人々の役立ちたい、被災者の傍らに立ってあげたいと延べ1200名を超えるボランティアの皆さんが全国各地から集まってくださり、仙台、石巻、東松島、塩釜、気仙沼、南三陸、釜石などの地域で献身的に物資運びや炊き出し、家の泥出しや荷物出しなどを行ってくださっています。活動の初期段階から拠点や物資倉庫を提供していただいた明泉幼稚園、その後に現在の拠点

され、当機構の重要なパートナーとなりました。また、全国各地から送られてくる物資の数々。それを名古屋から定期便で運んでくださっている方々がいます。段ボール箱に書かれていたメッセージも被災者の方々をどれほど励ましていることでしょう。沖縄からの支援物資にあった大きな寄せ書きには涙しました。また倉庫で働いてくださっている地元仙台のみなさん。彼らも何かをしたいという思いで毎日弁当持参で駆け

ないほどの多くの人々の支えがあることを心から感謝しています。被災者の方々の戦いはこれから長く続いていきます。しかし、そういった方々を応援してくれる日本中、いや世界中の仲間がいます。被害を受けられた皆さんの傍らに立つ人々、Stand by You の人々です。JIFHは今後もこの震災救援、復興活動を長期の活動と捕え、仙台に事務局を置き被害に遭われた方々のためにStand by You の人々と共に働いていきます。



パン・アキモト 秋元義彦社長（ハンガー・ゼロ特別大使）活動レポート

NGOだからできる支援がある 「救缶鳥プロジェクト」が大いに威力発揮

震災直後から、被災地はライフラインと物流が切断され食糧不足状態が続いていた。いち早く現地へ入ったJIFHの清家スタッフからの悲痛な叫びの連絡、パンが欲しい!!と。しかも日持ちと美味しさを兼ね備えたモノが必要と…。

そして既に二万食以上のパンの缶詰

が、JIFHの手によって被災地で配られた。時間の経過と共に沢山の義援物資は届き始めるが、オフィシャルルートは大きな避難所への物流が中心。

周辺の家庭難民と云われる人や辺地にいる人には、物資がほとんど行き渡らないのが現状。そんな行政サービスの手の届かないところで発揮するのが、パワフルで小回りの効くNGOやNPOのボランティアの底力。

JIFHは海外のみでなく、国内でもいち早く活躍。弊社のパンの缶詰は震災と共に進化し続けると自負している。

ニーズに沿った災害備蓄食として、備える人、食べる人、そして再利用を希望する人などの考えを含んだ製品への深化が求められてきている。JIFHとのタイアップ事業「救缶鳥プロジェクト」は、今般その威力を発揮した。国内外を問わず、食糧を持てる人が持た



パン・アキモトの活動はテレビ東京「ガイアの夜明け」で報道され大反響がありました

▶避難所で優しく歌い自らの阪神淡路大震災での体験を語る森親善大使、関西テレビでも紹介されました



4月5日、当機構・親善大使の森祐理さんが、宮城県石巻市で「ミニコンサート」石巻市内の門脇中学校と湊小学校を訪問し、体育館や教室で避難生活を続けておられる被災者を前にし

福音歌手 森 祐理（日本国際飢餓対策機構親善大使）避難所でコンサート

こころの救援物資を届けます 避難所を訪れ、歌とお話で被災者を励ます

て「上を向いて歩こう」や「ふるさと」、子どもたちが好きなディズニーソング、阪神・淡路大震災の震災ソング「幸せ運べるように」（宮城バージョン）などを歌った。

曲の合間には、地震の被災体験と弟を亡くした悲しみ、痛みについて語られ、厳しい避難所暮らしを続けておられる方々の思いを代弁しつつ、それでもなお希望をもって、お互いに支え合うこと、助け合うこと、信じることを優しく語り、被災者を励ました。

コンサートに参加した一人のご婦人は「地震が来ても、津波が来ても泣かなかった。でも、今日は思い切り泣きました」と感想を述べられた。

岩手県の被災者から感謝のメール

私にもパンの缶詰が届いた！

先日の東北大地震で被災し、今は避難生活をしている者です。私たちの住む大槌町は、町長も遺体で見つかり壊滅的な被害を受けた町です。以前、テレビでアキモトさんの救缶鳥プロジェクトを見て、凄く感動し、素晴らしい活動だと思っていました。そして今、私たちは地震と津波で家を失い、この先、生きていくのに不安を覚えています。そんな、私の元にも救缶鳥が届きました！本当に涙が出そうです。

まさか自分たちが被災者になるうとは思ってもしなかったで、こんな素敵なプレゼントが来てくれたんだと思うと、もったいなくて缶を開ける事が出来ません。本当に素晴らしい活動ですね。私たちの町にも救缶鳥が来てくれて、子どもたちに笑顔が戻ってくれる事を願います。ありがとうございます。（岩手県上閉伊郡大槌町の藤原さんから）

ざる人へタイムリーで安全に、しかも優しさと祈りのメッセージ付きで被災者に渡されている。新しいソーシャルビジネスのモデルになってきた。（経産省・H23年3月認証）

●配布実績（3月～4月19日まで）
パンの缶詰と救缶鳥：18,075食
食パン（菓子パン含む）：2,250食
この他に同社の関連企業などから牛乳類3,320本、チーズ500個、お菓子5,000個、イチゴ120パック、多数の生活雑貨、下着類

※救缶鳥については、パン・アキモトのウェブサイトをご覧ください

歌をきいて希望もらいました

森祐理さんの歌に感極まりました。とくに最後の曲「ふるさと」はベトナムで歌手をしている娘もよく歌う曲です。娘の事を思い出しました。彼女もいま向こうで募金を集めてくれています。私たちまさか夫婦で学校で避難生活をするとは思ひもよませんでした。リサイクルの会社を経営していましたが、津波で10人の社員を失って胸が張り裂けるような思いでいました。でも森さんの「上を向いて歩こう」を聴いて希望をいただきました。仕事は残ったみんなと続けようと決心しました。（鈴木俊弘・康子夫妻、宮城県石巻市湊小学校慰問にて）



緊急支援募金 ご協力下さい

郵便振替 00170-9-68590

日本国際飢餓対策機構

記入欄に「東北地震」と明記。

集計：31,879,938円

（4月15日現在、国内と海外の合計）
皆様の温かいご支援を感謝いたします。



活動は宮城県、岩手県を中心に物資配布、住居の片付け、炊き出し、避難所でのお手伝い等多岐にわたりました。写真はほんの一例

■緊急支援物資配布地域

〔宮城県〕
仙台市（若林区、住吉台、向陽台、蒲生、ほか）、石巻市、気仙沼市、塩竈市、名取市、東松島市、栗原市、亘理郡、本吉郡、女川町
ほか
〔岩手県〕
釜石市、宮古市、ほか
〔福島県〕
相馬市、南相馬市、ほか
この他にも小規模避難所など多数有
※出勤回数や参加団体は現在集計中

●緊急支援で配布した主な品目

【食料品／飲料水】水、米類（インスタント含む）、調味料類、麺類（即席含む）、缶詰類、お菓子、粉ミルク、マヨネーズ、コーヒー、果物、乾パン、即席みそ汁、離乳食、茶類、レトルト、魚肉ソーセージ、ふりかけ、海藻サラダ、栄養補助食品、野菜（人参、玉ねぎ、大根、しいたけ、長ネギ、ごぼうなど）等
【生活用品／衣類そのほか】
トイレトペーパー、ティッシュ類、おむつ（大人用、乳幼児用）、生理用品、石鹸類、タオル、カイロ、マスク、ほ乳瓶、母乳パッド、下着、歯ブラシ、歯磨き粉、手洗いジェル、シャンプー、リンス、髭剃り、サランラップ、カセットコンロ、ガスボンベ、鍋、やかん、フライパン、水タンク、紙皿類、割り箸、スプーン類、包丁、ビニール袋類、かさ、合羽、服、長靴、布団、布団袋、毛布、マット類、寝袋、湯たんぽ、軽油、手袋類、電池、石油ストーブ、灯油、ライター、懐中電灯、冷蔵庫、バケツ、デッキブラシ、スコップ、ブルーシート、工具類、コロ付キャリー、ガソリン携行缶、折り紙、おもちゃ、書籍（絵本、漫画含む）、かばん類、家庭用常備薬、消毒液、綿棒、ばんそうこう、自転車など。

東日本大震災活動レポート

一般財団法人オアシス
本郷台キリスト教会
サッカースクール・エスペランサ
チャブレン佐藤賢二

4月4日から8日にかけて、一般財団法人オアシスからの第3次東日本大震災被災地支援チームとして、宮城県石巻市に行ってきました。牡鹿半島の折浜という小さな漁村や、津波の被害がひどかった石巻の鹿妻小学校近くで牛丼やおしるこの炊き出しをしました。温かい料理、肉や野菜のバランス



炊き出し、物資配布、そして共に流す涙

日本国際飢餓対策機構
大阪事務所
後藤香奈子

見渡す限りの瓦礫の山。街を覆いつくす粉塵と異臭。ここに人々の生活があったということが想像できない光景。

私は宮城県石巻市を訪れました。避難所で5才位の子どもを連れたお母さんに声をかけました。「何か必要な物はありますか？」



自宅の2階でかろうじて避難生活をしている方を訪ねて、生活の様子をたずねる（中央◎に後藤）

の取れた食事、そして甘いものはとても喜ばれ「こういうものが欲しかった」と言って頂くことができました。

ある方が言いました。「あなたたちは、強制されて来ているのではありませんね。見ていると分かるんです。心のこもった、温かいものが伝わってきます。」神様が、私たちを通して、単なる食べ物以上のものを届けてくださっているのを感じ、私たちも励まされました。

最後の夜となった4月7日、私たちも震度6弱というかつて経験したことのない激しい地震を経験しました。翌日、津波で住宅の1階が滅茶苦茶になりながらも、辛うじて2階に住んでいる方々の顔が思い浮かび、予定を変更して安否確認を兼ねて再度彼らを訪問することにしました。家や土地は損

困っている事はないですか？」私の問いかけに「大丈夫です」と初めは口が重かったものの、私が小学生の息子の話をすると一気に打ち解け、涙をボロボロとこぼしながら「地震直後に子どもが喘息の発作を起こして笑顔が無くなり、本当に辛かった」と話されました。

私は思わずお母さんの手をぎゅっと握って「私、頑張りますね！一緒に頑張りましょうね！」と共に涙を流しました。

お母さんも「はい！私も頑張ります！本当にありがとう。今日のことは一生忘れません」と私の手をぎゅっと握り返されました。

また、自宅に避難している方々に物資を届けている時に道端で出会った女性は「父がまだ行方不

マイクロバスに炊き出し道具一式を揃え、自己完結方式で炊き出しを行った本郷台キリスト教会のボランティア。それぞれの役割分担もされて素晴らしいチームワークでした



傷も広がっていましたが皆さんは無事で、私たちとの再会をとても喜んでくださいました。お互いの顔と名前が分かる関係があると絆も深まります。継続した支援が必要だと改めて思われました。

震災直後は、とにかく緊急性が求められていましたが、これからは「心の必要」が大きくなっていくと思います。今回、被災者の話を聞いて傍らで共に涙しただけでも、とても喜んでいただきました。被災された皆さんのために、神様の愛を携えて被災地に足を運んでくださる方がたくさん与えられるようにと祈ります。

明なんです」と淡々と語り「でも、辛い思いをしているのは私だけではないので」と他の被災者への気遣いを口にしておられました。その方のために一緒にいたボランティアがお祈りをしました。その方は「遠いところから来て下さって本当にありがとう。ありがとう」と何度もお礼を言って下さいました。

被災地には続々と物資が届けられています。しかし、被災者の方々が必要としているのは「物」だけではないと強く感じました。皆さんの心は傷つき飢え渴いています。心と心のふれあいを求めています。これからもキリストの愛を模範として、試練の中にある人々の必要に応じていきたいと思われました。

親愛なる里親の皆様へ
カンボジアの子もたちの成長を支えてくださっている事に、心よりお礼申し上げます。

今回は、世界里親会の活動が行われているカンボジア・アンロンベンアンロンベンの8つの村の成長の様子をご報告いたします。



クリスマス会に集まった子どもたち

子どもたちと地域の未来のために

貯蓄グループ

この6ヶ月間、私たちは各村の里子の保護者に貯蓄グループを作るように勧めてきました。

その結果、現在75組の保護者が村の貯蓄グループに参加しています。このプログラムの主な目的は、保護者が自分たちでお金を貯めて、子どもの学用品や自転車などを買うことができるようになると同時に、将来小さな商売を始めるための積立預金をすることにあります。

楽しいクリスマス会

昨年も里子たちの熱い要望に



ゲームを楽しむ子どもたち

●子どもたちは里親さんを待っています。お申し込みは大阪事務所

応えて、世界里親会主催のクリスマス会をお祝いしました。クリスマス会には、里子や里子でない子どもたち、合わせて500人以上が参加しました。子どもたちにとっては、本当にうれしい一日となりました。ある里子は「7つの村合同でクリスマスをお祝いできたのは初めてです。お互いに知り合えてとても嬉しかった。お昼ごはんと一緒に食べて、ゲームをして歌って、劇を見る、楽しい一日でした。来年もこのような会を開いて欲しいです。」と言っていました。

村の開発計画

昨年は、それぞれの村で前年よりさらに責任を持って村開発計画を立てるよう、里親会の全スタッフがチームとなって村の人々を励ました。自分たちの利益のために自分たちで計画を立てたことがなかったのに、人々は当初戸惑

いがありましたが、何とか年間計画を作ることができました。今年からは村人だけで村を開発していけるよう勧めていきます。村の開発委員の一人、エク・タブ氏は「私たちが問題に直面した時に



貯蓄グループの集まり

は、世界里親会のスタッフが知恵をかけて助けてくださるので、とても感謝しています。例えば私の家にはトイレがありませんでしたが、妻と2人でトイレ作りに挑戦しました。今では小さな家ですが、トイレがあります」と語ってくれました。

電話072-920-225まで。